

RECOVERY

ISLAND OKINAWA A 季刊誌リカバリーアイランド沖縄

[無料]

2015.10 FALL

10号記念誌

10号記念企画

沖縄で回復するということ

依存症治療最前線

「名もなき隣人への愛」に想う～私の原点～

医療法人 上泉会 かいクリニック医院長 稲田 隆司

RECOVERY

ISLAND OKINAWA

RECOVERY island okinawa vol.10

2015ryukyuu-gaia MOOK

Art direction: Takashi Yonamine

Photos By Takakaja Miyazato

<http://takakaja.com/>

2 仲間の声

「ゆっくり のんびり 8年目の夏」=琉球GAIA OB BON-BONさん

3 仲間の声

「ゆっくり気長にやってこう」=琉球GAIAスタッフ 阿部 明

4 依存症治療最前線

「名もなき隣人への愛」に想う ～私の原点～

医療法人 上泉会 かいクリニック 医院長 稲田 隆司

6 家族の声

「依存症家族から」=琉球GAIA家族会 Nさん

7 琉球GAIA 広報ページ ～僕たちの夢～

8 一日集中セミナーを終えて=琉球GAIA代表 鈴木 文一

リカバリーアイランド沖縄は、依存症から回復したいと願う人たちに、
“希望”のメッセージと様々な“選択肢”で「あなた」を応援する季刊誌です。



沖縄で回復すること

私達が目指すこと
仲間が目指すこと
沖縄を選んだこと

私たち琉球GAIAが沖縄に根付き早14年目を迎えました。人なら14歳、「思春期」の頃でしょうか。これまでのことを振り返ると試行錯誤の連続で色々行き届かなかったこともあったかと思えます。

しかし、回復の地をここ沖縄に求めたことは間違いではなかったと確信しています。沖縄の持つ独特の自然と風土、人々の朗らかさ。今まで混沌とした中を突っ走ってきた私たち依存症者にとって回復に必要な物が当たり前のように溢れています。

今回の季刊誌「リカバリーアイランド沖縄」は10号記念ということもあり、もう一度「なぜ私たちは沖縄にいるのか。」という原点に立ち戻り、GAIAのOBで社会に出て頑張っている仲間や専門家、家族の話から理想的な回復には何が必要なのか考える機会にしたいと思います。



「あ、受け取っていないのは僕だ。」

僕が恨み続けているだけだ」

と気がつき...

「あ、受け取っていないのは僕だ。」
「僕が恨み続けているだけだ」
と気がつき...

「あ、受け取っていないのは僕だ。」
「僕が恨み続けているだけだ」
と気がつき...

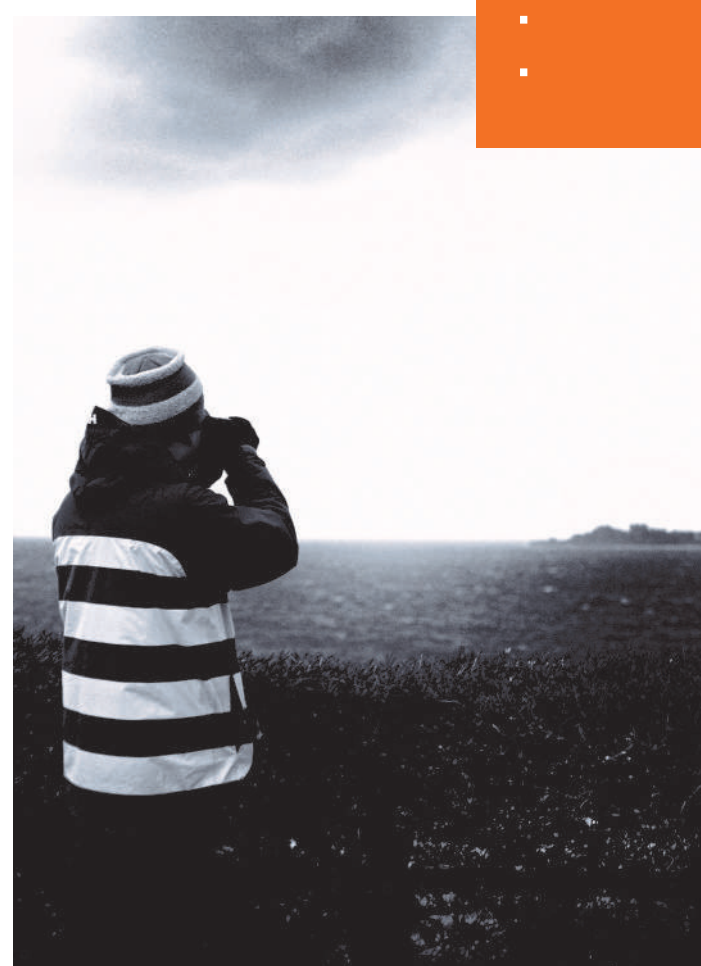
「あ、受け取っていないのは僕だ。」
「僕が恨み続けているだけだ」
と気がつき...

「あ、受け取っていないのは僕だ。」
「僕が恨み続けているだけだ」
と気がつき...

RECOVERY

ISLAND OKINAWA 仲間の声

「ゆっくり のんびり 8年目の夏」
琉球GAIA OB BON-BONさん



RECOVERY

ISLAND OKINAWA
仲間の声



琉球GAIA理事・スタッフ

阿部 明

AKIRA ABE

Profile

阿部 明 (あべ あきら)
1978年生 東京都出身
(略歴)

1999年 服部栄養専門学校卒業

同年 調理師免許取得

2004年 琉球GAIA 入寮

2009年 琉球GAIA スタッフとして活動



「ゆるゆる気長にやっぴん」

皆さんこんにちは、琉球GAIAスタッフの阿部 明です。今回はGAIAにつながる前と退寮した後のことを書かせてもらいます。

自分が繋がる決定的になった出来事は四年間止めることの出来ていたクスの使用が再び始まったことです。使用期間は二四歳から二六歳の二年間ですがこの二年間で一気に底をつきました。再発の原因になった事は仕事のストレスでした。当時の仕事はホテルで料理人をしていたのですが、すごく忙しく週に何度かは泊まり込みで仕事をやる状況で、常にヒリヒリした人間関係の中で仕事をしていました。身体的にも精神的にも疲れ果てた状況の中、仕事帰りにクスリを使っている友人に偶然出会いました。案の定クスリを誘われ、はじめは断っていたのですが心が揺られて「こんなに仕事がんばっているから一回くらいならいいだろう。頑張っている自分へのご褒美だ。」と思い使ってしまった。

それから二年間で一気に底をつき、自分の姿を親が見るに見かねて警察に通報し逮捕されました。その後GAIAにつながる事ができたのですが、その時はまだ離脱がひどく妄想がとれない状態でした。

そんなひどい状況(苦しい)での入寮スタートでしたが自分は結局十ヶ月入寮することになります。その間は自分で言うのもなんですが結構真面目にプログラムをこなしてきました。そして七ヶ月で就労プログラムの許可が出て仕事探しを始めました。実はこの時期、サーフィンプログラムにはまっていて入寮生活も楽しくとても充実していました。「出来ることならもう少しサーフィンを楽しみたいなあ」とおもっていたのですが…(笑)

そして仕事の給料を自立資金に充て、GAIAの近くにアパートを借り、入寮十ヶ月で退寮することになりました。その後通所でGAIAに通う生活を一年六月続けました。

仕事が終わった後にGAIAに寄ったり、休みの日にはGAIAのスポーツプログラムに参加したりしました。この時期は入寮生活時とは違って先行く仲間の立場として何か役立つことはないかという気持ちも芽生えていました。そんな考えが出てきたのも人間関係が健全になってきて自覚と責任感が育ってきたのだと思います。クスリを使っていた頃は、平気で嘘をついて他人をだましてきました。とても苦しい記憶です。

ですから施設につながってからは信用されるような人間になろうと心がけてきました。少しずつ信頼関係が築けてくると色々頼まれたりすることが増えてきました。そんな関係が築けて仲間の中に居る事が自分の孤独感を解放出来ることだと気付きました。そこが自分の回復のスタートだったような気がします。

入寮、通所を経てOBとなり、OBとしての生活を約三年続けました。しかしこの三年間は試練の連続でした。通所の頃は仕事帰りや休日にGAIAに顔を出していたのですが、全然顔を出さなくなり、仲間から離れていったのです。俗にいう「治つちやった病」に侵されていたのです。「クスリはもう三年止めているから大丈夫」「もうプログラムは必要ないなそんなことを考えていて、段々GAIAに行きづらくなり、しまいは全く顔を出さなくなったのです。

しかし、仲間から離れた生活をしているうちに自分の病気は進行してしましました。「クスリさえ止めていけば大丈夫でしょ」という気持ちで自分の内面を見つめる作業を怠っていました。生きづらさを感じるのも当然の結果でした。

そんな時GAIAでスタッフ研修をする機会を与えられました。色々悩んでいた時期だったので正直救われた気持ちでした。それと同時に今までGAIAから多くのことを与えられていたので少しでも恩返ししたいと思いスタッフ研修を受けました。

現在スタッフとしての生活も六年目になります。沖縄での生活も十一年目を迎えました。まさか自分が沖縄にこんなに長く住むことになるとは思っていませんでした。クスリを使っていた頃は必死に苦しみながら生きて、クスリを使う以外は「幸せだなあ」と感じることはありませんでした。しかし沖縄でプログラムに繋がり、身も心も健康的になって生きている実感を持つようになりました。第二の人生(新しい生き方)は沖縄からスタートしたのです。だから「それからも沖縄でやって行く決断が出来たのだと思います。「ゆっくりと気長」にやっぴん大切さは仲間の中にいたから「そ気付く」ことができました。

最後に入寮中の頃ですが鈴木施設長が「自分にとって回復は幸せだ」と言っていました。その言葉を聞いて自分も「幸せ」を感じる瞬間を増やしたいと思っていました。「回復＝幸せ」という言葉に希望を持ちました。これからも「回復＝幸せ」を実践していきたいと思えます。

最後まで読んで頂きありがとうございます。

「名なき隣人への愛」に想う ～私の原点～

医療法人 上泉会
心療内科 かいクリニック 医院長
琉球GAIA囑託医 稲田 隆司



Profile
稲田隆司
医療法人 上泉会 かいクリニック 理事長 院長
沖縄県医師会 常任理事
沖縄被害者支援ゆいセンター 常任理事
NPO法人琉球GAIA囑託医、
沖縄振興審議会専門委員（内閣府）

琉球GAIAの季刊誌に寄稿するにあたり、いくつかの記憶が想いおこされた。それらの記憶は何らかの形で私自身を支えているように感じられるので、記憶をワープしつつ記してみたい。

研修医の頃、先輩に勧められ、久里浜病院のアルコール依存症研修に参加した。一週間の合宿形式で講義、患者さんと一緒に行軍など充実していた。内容ははっきり覚えてはいないが、それでも当時の河野先生の気迫と熱のこもった発言は今でも記載できる。

「名もなき隣人への愛」この言葉は折にふれ脳裏をよぎり、その意味を考える事がある。AA(アルコールリックス アノニマス)についての講義で教えていただいた。まだAAがいくつかの地方にしかなかった頃の話である。断酒会の非匿名性、AAの匿名性の文化的背景なども議論に出ただろうか。「名もなき隣人への愛」、その本質について私は書くことが出来ない。よく掴めていない。ただ、とても大きな、大切な意味が込められているように思える。

久里浜研修の後、久里浜方式をモデルに総合病院でアルコール依存症の臨床を始めた。断酒会と連携し、解毒入院や回復期のリハビリ、ミーティング等、外来や病棟のスタッフと共に援助体制を整備していった。シンナー依存の少年を断酒会のメンバーが特別会員として認めてくれてかわいがり、少年は「おじさん達みたいに頑張る」とシンナーを止めて退院していった。この経験が私が薬物依存の臨床に興味を持つきっかけにもなった。

そんなある日の夕方、フラッと断酒会の会長が医局に私を訪ねてきた。粗っぱいが気持ちの良い情の厚い方だった。どうしたのですかと問うと特には応えず「先生これからも頼むわ。」と言って帰っていった。後姿が何となく影が薄い感じがした。その晩、急病で他界されたと連絡があった。若い医者が生意気にと何度も思われただろうが色々断酒会について教えていただいた。「先生は断酒会の参与にしたらわ。」といった笑顔が忘れられない。



【ニーチェ】1844～1900
ドイツ 古典文学者 哲学者
「悲劇の誕生」ではギリシャの神アポロに理性を象徴させ、デュオニソスに情動を象徴させた。

1987年名古屋で精神医療誌のフォーラムがあり、私も参加した。断酒会やAA、アルコール依存症の構造に関する試論を発表した。ニーチェを援用し、「悲劇の誕生」のアポロとデュオニソス論からヒントを得た。若書きの気負った論考であったが、初期の論考にその人の特徴が出るというから、いま読み返してみても、自分はこんな感覚かなとも思う。

「〈断酒会論〉への一視角ー断酒会の功罪についてー」と題した。

一部引用してみる。

～デュオニソスを見捨てたが故に、またアポロからも見捨てられたのだ～

自助組織である断酒会について、外部からその功罪について語れるのかという躊躇は否めない。余計なお世話だという声も聞える。断酒会の功罪は断酒会自らが語るべき課題である。とはいえ、アルコール医療は良きにつけ悪きにつけ、自助組織とのからみから展開されてきた。そういった意味では、運動を共にした立場から、なにがしら述べ得ることができるかもしれない。

○集団による癒し

個としてアルコールとの関係に苦闘して来たものが、集団の中で癒されているように見える。森山公男は集団療法について次のように述べている。

「ここでニーチェの言う『ディオニソス対アポロ』に依拠して、私たちは『集団療法』の過程の本質を次のように言い表すことができる。それはディオソニスの祭りと規範的關係との間の[※]弁証法的運動の過程である。そして別言すれば『集団における治療』の意味は、集団に対する個の關係における何らかの障害の軟化にあると言える」

また、イエスの方舟において集団の渦中にあつた[※]千石剛賢(千石イエス)は、自愛を突き詰めれば他愛に至るとして自らの集まりを語っている。

「私たちの集まりの内容は三層に分れている。表面は仲良しクラブ、一皮めくれば非常に自我の強い者の集まり、そして最後にあるのが他の中に自己を見ていく世界だ。これが完成である。」

多種多様の集団論に分け入ることはやめ、今は集団の動的過程と自他の弁証法に注目しておこう。その中に何らかの癒しの過程があることは確かである。

この発表をしたフォーラムの特集が精神医療誌に載り、その中で金杉先生が重要な指摘を行った。依存症を語るシンポジウムと精神医療の改革を語るシンポジウムの参加者が別々で、依存症側の参加者は精神医療改革側への参加が少なく、逆もまた同様であったことが気に掛かると記された。私も同感で依存症の臨床が精神医療の改革にもたらす豊かさを実践で示さねばと思った。治療契約の理念、当事者運動の突破力、家族、市民との連携等々、これらは閉塞した収容所型精神病院の改革に大きく繋がるものと考えていた。当時は宇都宮病院や大学医局での人体実験が告発され、精神医療の在り方が厳しく問われた時代であった。

その後、大学病院でミーティングを中心にした依存症、摂食障害、思春期外来を2年ほど行い、MAC、DARC、AA、NA、断酒会、ALANONと多くの当事者運動の方々の参加、交流を頂いた。NABA(摂食障害からの回復と成長を願う人々の自助グループ)からは新聞を購読して患者さんにも読んでもらった。

クリニックを開業した頃、ひょんなご縁でトランスパーソナル心理学の人々と知り合い、「スピリチュアル・エマージェンシー」(高岡よし子+大口康子訳 1999 春秋社)という論文集へのメッセージを依頼された。「魂の危機」という観点から様々な現象を考えようという運動である。スピリチュアル・エマージェンシ・ネットワーク THE SPIRITUAL EMERGENCE NETWORK(SEN)は自助グループ運動の流れにあると感じると書いた。

一部引用してみる。

AAは、疎外され、酩酊下で自我肥大に苦しむ多くのアル中たちに、無名でありゆだねる事、靈性に繋がり生きることを伝え、静かな覚醒をもたらしている。そしてこのメッセージは、アルコールに限らず、ドラッグ、食物、セックス、ギャンブルなど欲望の自己増殖に苦しむ人々の支えになっている。

彼らは、出会い、メッセージを伝え、痛みを共有し連帯する。傷を負い、集い、関係性の中で靈性もまた回復する。近年SA(Schizophrenics Anonymous 無名の分裂症者の会)も生まれた。名もない分裂病者として自らの「狂気」を見つめ、集う人々が現れている。

このような動きは自助(Self help)グループ運動と呼ばれ、広い意味での靈性回復運動の流れにある。私にはSENもそのような運動として感じられる。自助グループ運動が大きく精神医療を変えつつあるように、SENもまた人々の覚醒と解放に寄与するだろう。(注・分裂症→現在は統合失調症)



2015年現在、これらの記憶、また日々新たな出会いに支えられて歩んでいる。琉球GAIAも仲間を支え、仲間に支えられて活動を続けている。

心から敬意を表します。

※弁証法的運動・・・哲学用語、物事の変化や成長を本質的に理解するための方法、法則。
※千石剛賢(千石イエス)・・・兵庫県出身 宗教家。

『依存症家族から』

琉球G A I A家族会

Nさん



長男の危険ドラッグによる依存症発覚は今から三年以上前になります。二〇一二年の五月頃に長男の様子がおかしくなりました。恐怖感、脅迫観念、極度の嫉妬心など、薬物摂取による精神異常の現象が起り始めました。家族が知る頃にはすでに依存症は深く進行しているようです。同様に長男も六年も以前から軽い気分で始まり、危険ドラッグ乱用にまで進行していたことを、私たちは全く知らずにいたのです。「依存症は回復はするけれど、完治はしない。」「依存性は病気である。」「家族は本人から離れること」などのアドバイスを名古屋タルク家族会から学びました。私たちは長男から距離を置き、本人の「底つき」を待つ日々が始まりました。家族は深い絶望感、哀しみ、怒り、苦しみと言うマイナスの感情に支配されていました。家族に笑顔は失われ、これから先の不安と緊張で押しつぶされてしまいそうな毎日を通しました。その後も長男の止まることのない薬物乱用による色々な事件が起りました。やがて長男は「自力では止めたくても止められない。もうどうしようもない」という絶望の境地にまで追い込まれたのだと思います。また、ずっと見守ってくれた中学の親友からも「本気で何とかしろよ」と背中を押されました。

危険ドラッグ使用発覚から半年後二〇一三年一月に三度目の精神病院入院を経て、依存症治療のために琉球G A I Aに繋がることができました。私は入寮の日に沖縄まで同行しました。初めて見るG A I Aの印象は格別に嬉しいものではなく、「ここ」で本当に回復できるのか? という不安感の方が大きかったように記憶しています。それは私が本人の回復をまだ信じられていなかったからだと思います。帰りの便を待つ那覇空港では「どうして依存症になんかなくてしまったの?」「長男を沖縄において帰る寂しさなど色々な気持ちも重なって、一人涙が溢れて止まりませんでした。そしてG A I A入寮後翌月から、大阪家族会に通い始めました。

初めて大阪家族会に参加したときは「なぜここに私が居るの?」と言う居心地の悪さを覚えました。

どこかでまだ長男の依存症を受け入れられていなかったからでしょうか。けれど月一度の家族会で学ぶ中で、徐々に自分自身も長男の依存症問題を前向きに考えられる姿勢が持てるようになりしました。私自身が変わっていったのかと思います。家族会で学ぶ回復の道のりは本人と共に、家族の回復も同時に行われているように感じます。依存症の現実を受け止め「本人も家族も回復を信じていることができる。」そう思えた時がほんとうの回復の始まりなのかも知れません。また沖縄という風土が生み出す安心感と、癒される時間も回復に役立っているのだと思います。沖縄には以前にも何度か出かけましたが、沖縄の人の温かさがとても印象に残っています。

長男を沖縄に送ってから早二年八月、G A I A入寮期間一年半、今現在は通所しながら沖縄で働き、自立自活した生活を送っています。一時は絶望の淵にあった家族に、今は笑顔が戻ってきています。本人も家族もこの依存症問題はとつもなく大きな出来事でした。

まるで人生をひっくり返されたような衝撃です。父親はこの息子に対し、私以上に大きな責任を感じていたと思います。けれど今思うに長男の人生の中で、この依存症の壁はどうしても通らねばならない道であったように感じています。この事を境に長男は今まで抱えていた別の問題も正直に話せるようになりました。人としての成長が「ここ」から始まっていったのかなと。家族皆で長男の依存症を素直に肯定できる日が来るまで、家族も共に歩み続けたいと思います。

今まで長男を支えてくださった鈴木さん始めG A I Aの仲間やスタッフの皆さま、また沖縄で出会ってくださった多くの方たちに心からの感謝の気持ちをお伝えします。

さあ、はじめよう。新しい人生をG A I Aから。



R Y U K Y U G A I A

上田man、小学校5年生

上田裕司、ガイア5年生

僕たちの夢はオートバイレースで日本一になること

Here we go! Let's go on a journey!

mail@ryukyu-gaia.jp |

1102-16 AZASHIKINA NAHA OKINAWA
TEL 098-831-2174 FAX 098-831-7174

| www.ryukyu-gaia.jp

家族の為の一日集中セミナーを終えて



十月を迎え、ここ沖縄も朝夕に秋の訪れを感じるようになりまし。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

去る八月一日、G A I A 家族会・琉球G A I A 共催の集中研修会を行いました。講師の先生には埼玉県立精神医療センターの成瀬暢也先生、新潟医療福祉大学の近藤あゆみ先生をお迎えし、「薬物依存症の回復と家族」や「依存症を持つ家族に必要なこと」について講演をして頂きました。多くのご家族の方からは専門家の話を聞くことで、依存症についてより理解が深まり、大切なことを再確認できた、本人の回復への希望が見えてきた、私たち家族の回復が本人にとつて大切なことだと気付けた、仲間の重要性が分かった、多くの新しい家族と知り合えた等、充実した研修会だったとの感想を頂きました。

このような充実した研修会を開催できたことを家族会の皆様に感謝しつつ、これまでの歩みを振り返ると、やはり依存症からの回復において家族の力というのは本当に大きいものがあると実感します。

私が依存症リハビリ施設と関わるようになった頃は、依存症者本人だけが注目され、その一番身近にいるはずの家族の存在が見落とされがちだったように思います。本人がリハビリ施設である程度回復し、いざ実家や地元へ帰ると再使用してしまったり。このような光景を何度も見てきました。これは家族をはじめ周囲の人々が依存症という病気についての理解が乏しく、過去の苦しみや悩み等のトラウマから、回復しつつある本人との上手なコミュニケーションがとれなかったことが大きな要因だったと思います。

しかしこれは当然の事で、依存症という病気は家族や周囲を巻き込みながら進行していきます。依存症者本人と同様に家族もボロボロに疲弊してしまうのです。その家族が何のケアもなく放置されたままでは理想的な回復はなかなか難しいでしょう。

私たち琉球G A I A の一つの理念である「家族と共に回復する」はこの様な状況から生まれました。家族が依存症と言ふ病気について正しく理解出来る場所、家族が元氣と健康を取り戻し本人の回復に希望を持って信じられるようになれる場所、そして家族が有りのままの自分をさらけ出すことが出来て、悩みや苦しみ、回復への喜びを共感できる安心で安全な場所としてG A I A 家族会も9年前に発足しました。現在では毎月、全国三か所で開催されています。また年に二回宿泊研修会と懇親会を行い、この度の集中研修会は、本年四月より新幹線の皆さまと共に企画し、本年より新たな試みとして開催致しましたが、多くの好評を頂き琉球G A I A としてはこれからも継続して開催していきたいと考えています。

そしてもう一つの理念である「沖縄の大自然の中で仲間と共に回復する」のもと回復の地をここ沖縄に求めたことは間違っていないと確信しています。温暖で美しい自然、朗らかな人々、ゆったりと流れていく時間等、回復に必要なものが当たり前のように溢れています。地元を離れ疑心暗鬼で沖縄までやってきた多くの仲間たちも、日焼けし健康的になっていく自分や、サーフィン、ゴルフ等のスポーツプログラムで上達していく仲間を認め合うことで人間関係の改善にも良い影響を与えています。また入寮、通所を経て社会へ出ていく際も「もう少し沖縄で仲間のそばにいた方が安全だな。」といったことでO B になってもG A I A の近くにアパートを借りて仕事や学校に通っている仲間もいます。このような仲間が今では四一人となり、一つの小さなコミュニティを形成しています。これは琉球G A I A の大きな特徴となっています。

このように本人はG A I A 等のリハビリ施設や自助グループで、家族も本人同様に家族会や自助グループ等でじっくりと依存症についての理解を深め、多くの仲間たちと出会い、健康と元氣を取り戻すことが本人・家族を含めた依存症からの理想的な回復へ繋がると私たちは考えています。



さて以上のような願いを込めて、今年も東京G A I A 家族会恒例の宿泊研修会を開催致します。おかげさまでこの宿泊研修会も八回目を迎えることができ、今年も全国から多くの家族の方に参加して頂いております。今年もメインゲストには近藤あゆみ先生をお招きし、充実した研修となるよう企画しております。普段の家族会以上にじっくりと時間を取り、同じ問題を抱えた仲間たちとより深く触れ合ってもらいたいという想いがこの研修会には含まれております。琉球G A I A からも数名のスタッフで参加し個別の面談等も行う予定です。ご足労とは存じますが皆さま是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

【宿泊研修日程】

日程・・・平成二十七年十一月七日(土)～八日(日)

場所・・・神奈川県三浦市 マホロバ・マインズ三浦

*詳しい日程等は琉球G A I A プログラム・フェイスブックをご覧ください。

琉球GAIAの家族支援プログラム

Family support

文＝鈴木文一
text by Fumikazu Suzuki

薬物依存症の治療や回復には、ご家族の果たす役割が非常に大きいという事が実証されています

琉球GAIAでは「ご家族と共に回復する」と言う考えの元、ご家族の方にも「家族支援プログラム」の参加を強くお奨めしております。

依存症と言う病気をよく理解出来るようになる事。ご本人に対する適切な対応や、コミュニケーションを行えるようになる事。

依存症から回復出来るという事をご家族が信じられる事を大きなテーマにしています。また、家族会のグループがオープンである事、他の援助者や、治療機関と連携が取れている事も大切にしている事の一つです。グループに参加することで、ご家族に笑顔が戻り、本人同様、ご家族自身が仲間と出会い、回復を支援する為に必要な知識や情報を共有できる場所となるよう心がけております。

グループで学んだ事を実際の生活に活かせるようになるには、個別支援も必要になります。個別のカウンセリングを通して個々の問題を整理しながらグループに参加して頂けると、教育プログラムの効果が最大限に発揮されると考えております。

また緊急時の対応に関しましても出来る限りのサポートをさせていただきます。

琉球GAIAをご本人様が利用する、しないにかかわらず下記の家族会にはご参加頂けますので是非ご参加ください。

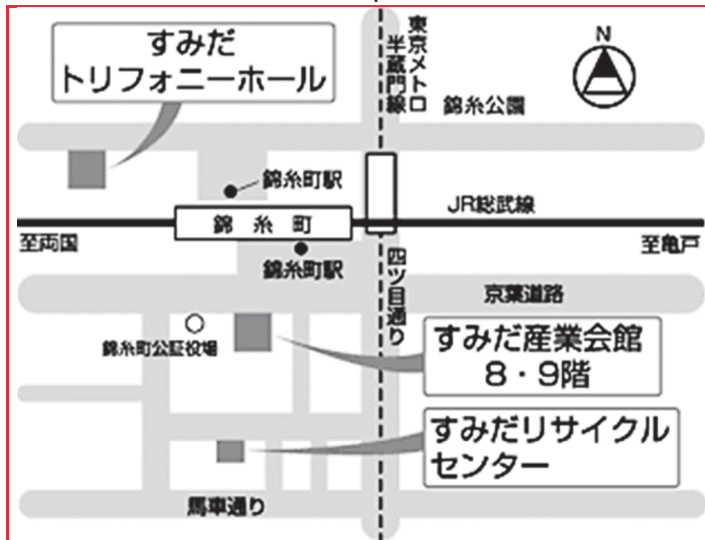
address

GAIA家族会 会場：すみだ産業会館8・9階

〒130-0022 東京都墨田区江東橋3-9-10 TEL:03 (3635) 4351

東京家族会とハイビスカスは、会場も開催日時も異なりますのでご注意ください。

map



依存症の問題を抱えた多くのご家族、琉球GAIAのスタッフ、OB、専門家を迎えてのセミナーなど、依存症に悩むご家族の方々にとって非常に内容の充実した家族会となっております。毎回40名ほどのご家族が参加されておりますが、初めてお越しの方でも参加しやすいようなアットホームな雰囲気作りを心がけています。

すみだ産業会館にて毎月第2土曜日の18時～20時30分のスケジュールで開催しております。参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡ください。
琉球GAIA：098-831-2174

information

「ハイビスカス」は薬物依存症や様々な問題を抱えた娘を持つ母親を中心にしたグループです。娘とのかかわり方、対応の仕方をテーマにミーティングや勉強会を行っています。一人で悩まずに、同じ問題に取り組んでいる仲間たちと一緒に体験や気持ちを分かち合ったり対応の仕方について勉強しませんか？ ご参加お待ちしております。

場所：東京都港区芝1-8-23 障害者福祉センター
日時：毎月第1土曜日（祝祭日は休み）
17時～20時30分（無料）
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。
琉球GAIA：098-831-2174

GAIA家族会

TOKYO

ハイビスカス

TOKYO

沖縄県内の依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。琉球GAIAスタッフが中心となり、ご家族の方からの質問や、本人とのかかわりについて具体的に提案する形で行っております。

場所：沖縄県立総合精神保健福祉センター2F

日時：毎月第2第4月曜日（祝祭日は休み）

19時～20時（無料）

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。

琉球GAIA：098-831-2174

沖縄家族会

OKINAWA

関西圏で依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。元・琉球GAIAスタッフの杉上を中心として、毎月専門的な講話や家族間での話し合いなど、充実した内容の家族会となっております。ご参加お待ちしております。

場所：兵庫県尼崎市南塚口町1-5-13

美容院ルーナロッサビル3F

日時：毎月第3金曜日の14時～16時

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。

琉球GAIA：098-831-2174

大阪家族会

OSAKA

琉球GAIAをご支援くださる皆様方へ・・・

10月を迎えここ沖縄も朝夕に秋の訪れを感じるようになりました。GAIAの仲間たちも夏の間の日焼けしてたくましさを増したようです。

おかげ様で本誌「リハビリアイランド沖縄」も10号目を迎えることができました。これまで「依存症リハビリ施設への理解やイメージ向上」、何より「回復への希望」を持てるような誌面作りを心がけてきました。今回は10号という節目ですので「沖縄で回復すること」とテーマを設定し、「なぜ私たちは沖縄にいるのか」という原点に戻りました。ゆったりと流れる時間の中で、一人ではなく仲間たちと一緒に回復することの大切さを感じてもらえると幸いです。そして家族の皆さまも一人で悩まず、悩みや喜びを共有できる多くの仲間と出会えることを願っています。

これまで本誌の作成に協力して下さった仲間や家族、専門家の皆さまにはこの場を借りて心よりお礼を申し上げます。そして、これからもここ「沖縄」から「希望のメッセージ」を全国へ届けられるような誌面作りを目指したいと思います。

私たち琉球GAIAの活動にご支援・ご賛同頂ける方は誠にお手数ながら、同封しております振替依頼用紙にて献金のご協力を願ひ申し上げます。

なお、献金の振込用紙は全ての方に同封させて頂いており、寄付献金を強要しているものでは無いことをご理解ください。

琉球GAIA 職員一同

献金お振込先 郵便振替 口座番号：01710-2-48714 口座名：リュウキュウガイア

アルコール・薬物・ギャンブル依存症に関する無料相談は琉球ガイアまで

www.facebook.com/ryukyugaia

RYUKYUGAIA

RECOVERY

ISLAND OKINAWA

2015年10月 1日発行

発行|特定非営利活動法人アルコール・薬物依存症

リハビリセンター琉球GAIA

〒902-0078 沖縄県那覇市字識名1102-16

TEL:098-831-2174 FAX:098-831-7174

MAIL:mail@ryukyu-gaia.jp

薬物・アルコール依存症リハビリセンター琉球GAIA

【GAIA東日本相談センター】

☎ 03-5800-5121

【GAIA西日本相談センター】

☎ 06-6433-5111

【沖縄ケアセンター琉球GAIA】

☎ 098-851-3535

フリーペーパー(無料)です、ご自由にお持ち帰りください。